

## 平成25年度第1回青森市健康福祉審議会地域保健専門分科会 会議概要

日 時：平成25年8月2日（金） 午後1時30分～2時40分

場 所：青森市保健所（元気プラザ） 1階会議室

出席委員：北谷安晴委員、嶋中繁樹委員、成田祥耕委員、堀内芳男委員、  
三浦祐一委員、村松 薫委員、山田弘治委員 《計7名》

欠席委員：なし

事務局：健康福祉部青森市保健所長 高澤鞆子、  
健康福祉部理事青森市保健所副所長事務取扱 野村由美子、今村貴宏、  
健康づくり推進課長 里村誠司、同課副参事兼健康支援室長 浦田浩美、  
同課主幹 倉光浩一、小形麻理、田中菜穂子、鈴木久美子、同課主査 種市靖子、  
保健予防課主幹 八木橋卓也、三浦裕子、  
浪岡事務所健康福祉課副参事 加福拓志、同課主幹 大澤真理子  
《計14名》

### 会議次第

#### 1 開会

#### 2 委嘱状交付式

##### (1) 委嘱状交付

前青森食品衛生協会会長の遠間善弘委員から辞任の申し出があり、現青森食品衛生協会会長の三浦祐一氏が新委員として任命され、任命後の直近の会議開催となった本日、委嘱状が交付された。

新委員 三浦 祐一（青森食品衛生協会会長）

#### 3 所長あいさつ

#### 4 組織会

##### (1) 分科会長の選出

嶋中委員を推薦する者があり、全委員異議なく、全会一致で、嶋中委員が分科会長に選出された。（嶋中委員了承）

分科会長 嶋中 繁樹（一般社団法人青森市歯科医師会会長）

##### (2) 分科会長職務代理者の指名

嶋中分科会長から、堀内委員が分科会長職務代理者に指名された。（堀内委員了承）

分科会長職務代理者 堀内 芳男（公益財団法人青森県総合健診センター専務理事）

#### 5 案件

##### (1) (仮称) 青森市健康増進計画策定概要について

##### (2) 青森市健康福祉審議会地域保健専門分科会臨時委員の選任について

( 3 ) がん検診に関する市民アンケートの実施について

( 4 ) その他

6 閉会

## 議事要旨

### 案件(1)(仮称)青森市健康増進計画策定概要について

事務局から、(仮称)青森市健康増進計画策定概要について、資料1のとおり説明があった。また、追加資料について補足説明があった。

### 質疑応答

なし

### 案件(2)青森市健康福祉審議会地域保健専門分科会臨時委員の選任について

事務局から、青森市健康福祉審議会地域保健専門分科会臨時委員の選任について、資料2のとおり説明があった。

### 質疑応答

( 委 員 ) 青森県健康体力づくり協会はどこにあるのか。

( 事務局 ) 松原にある「ビバイン松原」の2階に事務局があり、トレーニングスタジオも運営しながら、様々なコースをもうけ中高年の運動指導を実践している。

( 委 員 ) 運動に詳しい方がいるということでしょうか。

( 事務局 ) 健康運動指導士が所属する特定非営利活動法人であり、器具を使つての運動や、体操、教室のプログラム等、地域での総合運動プログラム等を独自に開設しており、地域の中で子どもから大人までの運動指導を行っている。

( 委 員 ) いろいろな団体の中で、この1か所だけしか青森市内に無いのか、なぜこの団体を選定したのか。

( 委 員 ) どんな基準で推薦されたかということが聞きたい。ここ以外にも健康運動指導士の資格がある人が所属する団体があるのではないか。

( 事務局 ) 健康運動指導士の資格のある方で構成されている職能団体はあるが、いろいろなところから講師の依頼を受け派遣するということは行っているけれども、団体独自で運動指導の事業を行っているのは、このみと把握している。

( 議 長 ) それでは、案件2のとおり、進めていただきたい。

### 案件(3) がん検診に関する市民アンケートの実施について

事務局から、がん検診に関する市民アンケートの実施について資料3のとおり説明があった。

#### 質疑応答、意見

(委員) アンケート4ページの胃がん検診についてだが、青森市の胃がん検診はバリウムによる検診だが、問16に胃の内視鏡検査を受けたかどうかの設問も入れてはどうか。

(事務局) 入れていきたい。

(委員) 次の5ページの大腸がん検診の場合だが、これも大腸がん検診は検便による検診であるが、大腸の内視鏡検査、注腸バリウム検査を受けたかどうかを入れてはどうか。

(事務局) 入れていきたい。

(委員) 肺がん検診は、毎年、受診率が非常に低いということだが、肺の写真を撮ったことがあるかどうかを何らかの方法で把握した方が良いと考えている。また、肺のCT検査を受けている人もいると思うので、CT検査を受けたかということも知ることができると良い。

(事務局) 入れていきたい。

(委員) アンケートの対象が、女性は20歳からということだが、これは子宮がん検診の対象年齢が20歳以上であることによるものなのか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 1回でも検診を受けたことがあるという方を前提としたアンケートか。

(事務局) 今回は、検診の受診状況の実態を把握したいということで、昨年度は受けたかということを探っている。

(委員) 昨年度受けていないが、その前に受けたことがある方は、今回のアンケートに答えることができないということになるのか。「ない」に を付けた人は、それ以降、全く記入する必要はないということになるのか。

(事務局) 例えば、「あなたは、これまでに何らかのがん検診を受けたことがありますか」で、「ない」と回答した場合、次は問18で受けなかった理由を選んでいただく。受けなかった方には、なぜ受けなかったのか答えていただく。たまたま昨年度受けていなかったのか、忘れていたのか、既に通院中だったのか、そもそもがん検診には興味がなく受けたくないということなのか、この質問で未受診者の意思を把握できれば

と思っている。

(委員) なぜこのような質問をするかということ、肺がん検診の受診率が一桁の8.6%ということで、一度も検診を受けたことがない方が、結構多い気がしている。したがってこれからの大きな課題は、一度も検診を受けたことがない方に、どうやって検診の必要性を理解していただくかということが重要だと思っている。がん検診を受けない方の原因がわかるようなアンケートであってほしいと希望する。

(議長) 今回の意見をアンケートに反映させるということによろしいか。

(事務局) はい。

#### 案件(4) その他

参考資料「健康あおもり21ヘルスアップ県民大会」について、大会主旨と、委員所属団体においてもPRしていただきたい旨、事務局からお願いした。

#### 質疑応答、意見

(委員) 追加資料の平均寿命だが、青森市が最後から4番目の順位となっているが、なぜこのような順位となるのか。先ほど検診の受診率の話もあったが、ただそれだけなのか。検診で早期発見した場合、これくらいの助かる命があるんだという数値など、一般市民に知らせるべきだと思う。一般の人は、見つかっても、がんになれば終わりだという感覚の人が多と思う。平均寿命は延びるんだよということを一般の人にも知らせたほうが良い。そうでないと、なかなか平均寿命は改善しない。もうひとつは、例えば、がんの早期発見で受診したけれど、別のところにがんの疑いがあった場合、また別のところに行かなければいけないということがある。局所的に治療や検診を行うのではなく、医療機関の連携などを含め、総合的に検診や診療が実施できれば、検診の受診率も上がっていくのではないか。

(事務局) 青森市の平均寿命は、平成17年の第2回の時は、ワースト50の中には入っていなかった。そのときの平均寿命が76.5歳、今回も76.5歳で同じである。県内他市町村の平成17年と22年の平均寿命の状況を見ると、男性の場合この5年間で延びている。周りが延びて青森市が動いていないということで、このような結果になっている。そのようなことも踏まえ、まずは、今回のワースト4位と言う現状を青森市民に伝えていきたいと思う。

(委員) 青森県の健康寿命についてのデータも調べてみたほうがいい。

(事務局) そのようなことも踏まえながら計画をつくっていききたい。計画をつくる前からできることとして、青森市の実情をどういうふうに見せていけばいいかを、早めに保健所内で検討していきたい。

(委員) 自殺とかメンタルの問題もある。それ以外にたとえば所得の格差ということもあるかもしれない。局所的に見ていくのではなく全体的に市民に示していく必要がある。

(事務局) 分析をしていきたい。

**閉会**